

区政会館だより

障がい者の親なき後の支援施設として
期待される「スクラムあらかわ」



ブータン王国の上院議長一行が荒川区を訪問し、
汐入東小学校の子どもたちと交流



東京スカイツリー®をバックに
走る都電荒川線と
区民が育てた沿線のバラ

23区ひと・まち物語

～つながりを訪ねて

第24回 荒川区

誰もが幸福を実感できる 地域社会を目指して

～「荒川区民総幸福度(グロス・アラカワ・ハッピネス:GAH)」に
取り組む荒川区～



につぼり繊維街をPR「日暮里コレクション」



区長が席亭を務める「ふれあい寄席」



区立遊園地の「あらかわ遊園」

誰もが幸福を実感できる 地域社会を目指して

23区
ひと・まち物語
～つながりを訪ねて
【第24回】
荒川区

～「荒川区民総幸福度(グロス・アラカワ・ハッピネス:GAH)」に取り組む荒川区～

荒川区では「区政は区民を幸せにするシステムである」という区政のドメイン(事業領域)を定め、基本構想における区の将来像を「幸福実感都市 あらかわ」とし、区民の幸福に真正面から取り組んでいます。そして、区民の幸福度を測る指標として「荒川区民総幸福度(GAH)」の調査研究を行っています。この荒川区独自の取組は、多くの自治体や、さらには海外からの視察を受けるなど広く注目を集めています。

近年人口が増える川のあるまち

23区北東部に位置する荒川区は、東西に長く平坦な地形で、北東部には隅田川が流れ、区内各所で川のある風景を望むことができます。

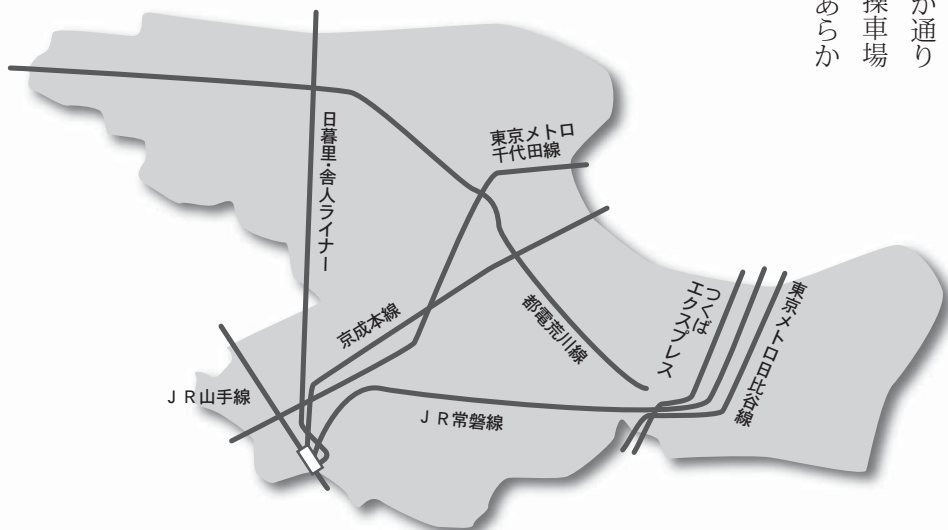
再開発による防災街づくりが進む南千住地域、都内唯一の都電荒川線が走る街並みと密集した住宅が下町風情を感じさせる町屋や荒川地域、JR山手線や地下鉄・東京メトロ千代田線が通り利便性の良い日暮里地域、鉄道操車場や23区唯一の区立遊園地である「あらかわ遊園」のある尾久地域など、区内ではさまざまなまちの雰囲気を感じることがができます。

また区全域を通じ、もともと下町ならではの近所付き合いが盛んで、地域住民の結び付きが強いところも下町・荒川区の魅力です。

区名は、現在の隅田川が、白鬚橋あたりまで上流と同じく「荒川」と呼ばれていたことに由来しています。昭和40年の河川法改正により、荒川放水

路が荒川となるまでは、確かに荒川区に沿って荒川が流れていました。区の人口は、平成10年以降増加を続けており、現在20万6000人が暮らしています。世帯数も平成19年以降9万世帯を越え、人口密度は23区中3位となっています。

路が荒川となるまでは、確かに荒川区に沿って荒川が流れていました。区の人口は、平成10年以降増加を続けており、現在20万6000人が暮らしています。世帯数も平成19年以降9万世帯を越え、人口密度は23区中3位となっています。



東西に長い荒川区。当時の川の名が区名として残っている

「荒川区民総幸福度(GAH)」の取組経緯

日本は戦後、歴史上稀に見る高度成長により経済発展を遂げてきました。しかし、そうした日本においても、豊かさを感じられないという国民の声がよく聞かれます。こうした中、区では、物質的な豊かさや経済効率だけでなく、心の豊かさや人と人とのつながりを大切にしたい、区民一人ひとりが安心して生活できるあたたかい地域社会を目指して、荒川区民総幸福度(GAH)以下GAHで表記の取組が行われています。

この取組は、平成16年11月に「区政は区民を幸せにするシステムである」という区政のドメイン(事業領域)を定めたことから始まりました。このドメインは、GDP(国内総生産)といった物質的な豊かさを追い求めるのではなく、区民一人ひとりが真に幸福を実感できるま

ちを目指していくことが区政の役割であるということを明示したものです。

その後、「世界一幸せな国」と言われるブータン王国の国民総幸福量、グロス・ナショナル・ハッピーネス(GNH)を参考に、月尾嘉男東京大学名誉教授の「幸福を求めるよりも、当面、不幸だといふ人を減らしていくことが重要ではな

いか」といったアドバイスを踏まえ、平成17年度に区民の幸福度の指標であるGAHを区政に取り入れることを決定しました。

早速、区役所内にプロジェクトチームを組織して、GAHの指標化の検討を開始しました。平成18年度にはブータン王国のGNHを調査研究するために同国へ職員を派遣するとともに、荒川区政世論調査の中でGAHに関する調査を開始しました。

その後、平成19年3月に策定した「荒川区基本構想」では、区を目指すべき将来像として「幸福実感都市あらかわ」を掲げています。

そして、平成21年10月には荒川区自治総合研究所を発足し、GAHの指標化に関する本格的な調査研究を開始しました。調査研究にあたっては、外部の専門家も参加している研究会と行政の最前線に立つ現場職員からなるワーキング・グループを設置し、多角的・実践的な視点から検討を行っています。

平成22年度には、こうした取組や有識者による論考をまとめた書籍「あたたかい地域社会を築くための指標―荒川区民総幸福度(グロス・アラカワ・ハッピ

ネス・GAH)―」を発売したところ、各方面から高い評価をいただきました。

平成23年度には、国からの要請により研究所から内閣府経済社会総合研究所に研究員を派遣したことに加え、健

公益財団法人 荒川区自治総合研究所 とは

荒川区自治総合研究所は、区が基礎自治体として政策形成力の向上及び質の高い区民サービスの提供を図るために、区が抱える課題等について多面的かつ中長期的な視点に立つて調査研究を行い、区に対し政策提言等を行うことにより、地域社会の健全な発展に寄与することを目的として平成21年10月に一般財団法人として設立された。その後、平成23年8月1日に公益財団法人となった。

研究にあたっては、さまざまな立場の専門家や学識経験者を客員研究員として招き、区とも密接に連携することで実現性の高い政策提言につなげている。また、研究所に区職員を派遣することで、職員の政策立案能力の向上も図っている。

自治総合研究所では、GAHに関する研究プロジェクトに加え、子どもの貧困・社会排除問題研究プロジェクト(子どもたちの健やかな成長を阻害し、さらには明日への希望をも奪いかねない子どもの貧困・社会排除問題が発生する構図を明らかにし、その解消に向けて必要とされる政策について提言した)、地域力研究プロジェクト(こ

康と子育ての指標案を含むGAHの取組に関する中間報告書を公表しました。

そうした経過もあり、区の取組に対しこれまで多くの自治体、民間団体が注目し、海外からも視察団が訪れています。

これまで地域で育まれてきたコミュニティを次世代に継承・強化していくとともに、区民一人ひとりが主役となり、互いに支え合うことができるような自治体運営のあり方について調査研究を行い、提言する)、親子後の支援に関する研究プロジェクト(「親なき後も障がい者の方々に住み慣れた地域で安心して生活していくことができるよう、障がい者本人を支援する政策や親の不安を軽減するための政策について提言する)、CS(顧客満足)と職員のモチベーションに関する研究プロジェクトの研究も行っている。

荒川区自治総合研究所の本 RILACライブラリー



今秋には、地域力に関する本を発行予定

GAHに関する研究会ではさまざまな視点からの議論が行われる



「幸せだと思う」は7割強

区政世論調査では、GAHについて、区民の幸福度及び各分野(「暮らし」「安心・安全」「地域とのつながり」「生きがい)における意識調査を実施しています。なお、平成23年第36回荒川区政世論調査では、幸せだと「大いに思う」「やや思う」と回答した人が7割強という結果が出ています。



子どもの安全確保のため、園児安全推進員が保育園や学校等で見守りをしている

GAHとは何か

GAHの二つの側面

GAHには、大きく分けて「指標化」と「運動」の二つの側面があります。

指標化の側面は、区民の幸福度指標を作成し、それに基づいて政策を実施していくというものです。区民の幸福度指標を作成することができれば、行政の政策・施策がどれくらい区民の幸せに寄与したかがわかり、政策・施策に反映させていくことが可能となります。また、区民の幸福という共通の指標をもって政策・施策を評価することができれば、限られた人員と財源で効果的に区民の幸福度の最大化を図ることができ、可能性が広がります。

もうひとつの運動の側面は、区に關



ふれあい館・ひろば館フェスタも地域力向上に一役

係のある人や団体などが、一緒に区を良くしていく運動につながっていくというものです。行政は、あくまで区民自身が幸福になるのをアシストしていく存在であり、区民だけでも、行政だけでも幸福度を向上させることはできません。GAHの取組を通じて、区民をはじめとする区に關係する全ての人や団体が、自分自身や身近な人、さらには地域の幸福を考え、一緒に行動していく運動を起こしていくことで、幸福度の向上を図っていきたいと考えています。

GAHの今後の課題

多様な価値観やライフスタイルが存



区民の幸福度は数々の施策によって高まっていく(車いすバスケット体験)

在する中で、幸福度の研究は極めて難しく、その指標化にはいくつかの課題があります。

例えば、幸福度のような主観的な指標はその時々状況によって変動する可能性があります。また、幸福度が上がってもその状態が当たり前になってしまうということも考えられます。

そのため、一般的なアンケート調査だけでなく、個別にヒアリング調査を行ったりするなど、きめ細やかな対応も必要になると考えられます。

荒川区自治総合研究所設立一周年記念シンポジウム
 荒川区民総幸福度 (GAH) の向上を目指して
 ~この一年の成果~



GAHがあたたかい地域社会を作る上で大きな役割を担う

あたたかい地域社会を築くために

これまでのGAHの研究から、幸福のために重要な要素や、不安や不幸を減らす要素が一定程度明らかになってきました。これを踏まえ、区では、幸福度指標の作成と並行して、健康維持施策、防災・防犯対策、失業対策など、さまざまな取組を行っています。区民の幸福度の向上を目指した取組は、基礎自治体のサービスのレベルアップ、自治体職員の意識改革という観点からも大変意義があると考えています。

神野直彦東京大学名誉教授は、社会とは他者との協力なしには生存することができない人間の共同生活の場であり、二十一世紀の日本を救うためには、

効率性を重視し、強者が弱者を淘汰する「競争社会」ではなく、互いを思いやり、一人ひとりの持てる力を分かち合う「協力社会」を築いていくことが重要であると説いております。

今年度、区は、区政施行八十周年という節目の年を迎えました。区では、GAHの取組を通じて、今後とも区の誇りである地域の助け合い、団結力をさらに深めながら、互いを思いやり、一人ひとりの持てる力を分かち合うことで、区民の不幸を減らし、幸福を増やし、誰もが幸福を実感できるあたたかい地域社会を築いていきたいと考えています。



子育て支援も幸福度の観点から重要な施策だ (写真はみんなの実家@まぢや)



「治安ナンバーワン都市あらかわ」を目指し、さまざまな施策が行われる (写真はスクール安全ステーション)

平成24年度 「区民の安心への備えを着実に進め 幸福を実感できる予算」 主な内容

区では、今年度の主要施策として防犯や防災を中心に、高齢者の介護予防や健康の増進、子ども支援の取組、就労支援など「区民の安心への備えを着実に進め幸福を実感できる予算」を編成し、「幸福実感都市あらかわ」の実現を着実に推進しています。

<主な施策>

■**防犯分野**：23区中、治安第2位から第1位を目指し、「治安ナンバーワン都市あらかわ」を実現していくため、「安全・安心ステーション」「スクール安全ステーション」「学校安全パトロール」「非常時用ホイッスル配布」などを実施。

■**防災分野**：荒川区地域防災計画に基づき災害対策の一層の充実。都市計画道路整備事業や都市防災不燃化促進事業などの実施、すべての防災区民組織を対象に補助金を支給、「防災隣組」、都市整備部と土木部を統合して「防災都市づくり部」を設置しハード面の災害対策、高齢者や食物アレルギーがある方のための非常食を充実させるなど、施策は多岐にわたる。

■**高齢者福祉分野**：「介護予防・日常生活支援総合事業」の実施、

おげんきランチの充実、医療と福祉の連携推進事業、認知症支援推進事業、高齢者見守りネットワーク事業などについても充実させる。

区内で7カ所目の特別養護老人ホームの整備、合わせて240床を新たに確保すると共に、都市型軽費老人ホームの整備に対する助成なども行う。

■**子ども支援分野**：待機児童の解消と子育て支援として、南千住七丁目保育園の開設、日暮里駅前の私立認可保育園の開設の支援など。認証保育所等利用者への保育料負担軽減補助の大幅拡大、一時保育事業等の拡大、子どもたちが自由に学習出来る場を提供する学習支援事業の新たな展開など、子どもの貧困問題への対策も積極的に進める。

■**就労支援分野**：専管の組織として産業経済部に新たに「就労支援課」を設置。また、若年者の正社員就職への支援、高齢者や女性、障がい者向けのセミナー、職業能力開発など。

■**障がい者福祉分野**：新たに「親なき後支援事業」を進める一環として、障がい者地域生活支援施設である「スクラムあらかわ」が開設。